

平成 24 年 8 月 24 日

民主党文部科学部門会議

座長 鈴木 寛 殿

全国医学部長病院長会議

平成 25 年度予算編成等に関する要望

医科大学・医学部は、教育・研究の実践の場として学生の教育と医師養成を直接行い、併せて高度先進医療を開発・提供し、国民の保健・医療・福祉へ貢献することを使命としております。一方、国民が必要とする医療のニーズは多様で、時代とともに変化しています。このような中で、医療の現場に携わりながら、医学教育、医師養成、そして医学研究を任務とする全国の医科大学・医学部として、平成 25 年度予算編成に際しては、以下の事項について格段のご配慮を賜りたく、要望するものであります。

1. 少子高齢化の急速な進行に伴って大きく変貌する人口構成および疾病構造と、それに伴う医療ニーズの変化に対応するため、倫理観を持った質の高い臨床医を養成するための支援

- (1) 幅広い診療能力を持った総合医を養成するための支援
 - ・大学医学部・附属病院における総合診療科（講座）の設置・充実に対する支援
- (2) 高齢者、認知症患者等に対して、予防医療を含む適切な医療を提供するため、多職種連携・チーム医療を推進し、医療・介護連携を実践できる医師を養成するための支援
 - ・地域連携（地域の医療機関等における学生実習の実施等）を推進するための支援

2. 高度医療を開発・提供する医科大学・医学部の基盤を強化するための支援

- (1) 専門性の高い、倫理観を持った高度医療人を養成するための支援
 - ・一貫性のある卒前および卒後医学教育を推進するためのカリキュラム開発に対する支援
- (2) 革新的な医薬品・医療機器の開発を担う医学研究者を養成するための支援
 - ・基礎医学と臨床医学の連携を強化するための支援
- (3) 研究マインドを育む医学教育を実践するための支援
 - ・基礎医学教育の環境整備、卒前医学教育のカリキュラム開発に対する支援
- (4) 医学部定員増に対応した教員数の確保、設備備品の整備に対する支援
- (5) グローバルに活躍できる医師を養成するための国際交流推進に対する支援
 - ・医学生の国際交流・教員の海外留学、外国人医師の招聘、英語教育の充実、英文論文作成支援のための人材を確保するための支援

3. 大学附属病院の機能を強化するための支援

- (1) 若手医師の帰学率向上と医師派遣機能強化を目指した、魅力ある大学附属病院作り（環境整備）をするための支援
 - ・後期研修医を含め若手医師のキャリア形成の中核として、多くの医師から選ばれるためには、研究、診療活動の一層の活性化が求められる。そのための大学医学部・附属病院への十分な支援
- (2) 大学病院勤務医の負担軽減対策のための支援
- (3) 国民から信頼される良質な医療を提供するための医療安全充実への支援
- (4) 大幅な消費税増税に対応した、患者負担を増やさない消費税の課税制度（0%課税と仕入れに関わる負担消費税の還付）への移行

4. 男女共同参画の推進による医師のワークライフバランスの実現への支援

- (1) 医師の多様なキャリアパスモデルの開発に対する支援
- (2) 女性医師のキャリア維持と向上、および就労継続への支援
 - ・大学附属病院における院内保育所の充実、フレキシブルな勤務制の導入などへの支援

5. 医師の地域偏在の解消と医師不足地域の医師確保への支援

- (1) 地域枠入学者のキャリア形成教育への支援
 - ・地域医療に対するモチベーションを維持・向上させ、地域指向の医療人としてのキャリア形成を促すため、課外学習を含めた卒前・卒後の医学教育のカリキュラム開発に対する支援
- (2) 大学と地域医療機関等によるコンソーシアム事業への支援
 - ・学生に対する地域医療教育、地域の医療機関での実習等の充実、卒業後の地域定着のための行政および地域医療機関等と連携した新たな仕組みを構築するための支援

6. 被災地への医療支援を継続するための支援

全国医学部長病院長会議被災地支援委員会が平成 23 年 4 月 15 日に発足し、被災者健康支援連絡会議の 1 組織として平成 23 年 9 月から 24 年 9 月までに 71 大学・391 人の医師を、岩手県、宮城県、福島県の 7 病院 16 診療科に派遣した。平成 24 年 1 月からは茨城県にも派遣。これらの医療支援を継続するために必要な支援。